



第1章

長野市水道ビジョン改訂の趣旨と位置づけ



戸隠水源 長野市水道事業創設（大正4年）の水源 貯水池貯水量 225,000m³

第1章 長野市水道ビジョン改訂の趣旨と位置づけ

1 改訂の趣旨

本市の水道は大正4年に通水を開始して以来、90余年にわたり市民生活や都市活動を支え、地域の発展に寄与してきました。

現在では、本市の水道の普及率*は、ほぼ100%となりましたが、本市の水道も水道施設の老朽化、人口減少等による水需要の低迷、地震等の災害対策、熟練技術者の大量退職に伴う技術継承の問題等、様々な課題を抱えています。

厚生労働省は平成16年6月に「水道ビジョン」を発表するとともに、平成17年10月には各水道事業体等へ、地域水道ビジョン策定を推奨する通達が出されました。これを受け、本市では平成21年2月に「世代から世代へ 安心を引き継ぐ長野の水道」を将来像として「長野市水道ビジョン」を策定しました。

その後、厚生労働省は、人口減少時代の到来が確定的になったことと、東日本大震災による広範囲な大規模地震の発生で甚大な被害があったことなど、水道事業を取り巻く環境の変化を受け、新たなビジョンとして「新水道ビジョン*」を策定しました。

「新水道ビジョン」が発表されたこと、長野市水道ビジョン策定から5年が経過したこと並びに平成29年度から簡易水道*事業を上水道*事業に統合することから、長野市水道ビジョンの見直しを行いました。長野市水道ビジョンの将来像を実現するため、給水人口*の減少を前提とした施策への転換、大規模地震などあらゆる自然災害に対応した危機管理対策など新たな問題に対応し、より実効性の高い計画とするため、「長野市水道ビジョン」を改訂しました。

改訂に当たり、施設台帳の整備を行い、個々の水道施設の資産価値を把握するとともに、主要な配水池の簡易耐震診断を実施し、耐震化計画を策定しました。

長野市水道ビジョンは、本市の水道が都市活動や市民生活を支える最も重要なライフラインとして、より信頼性の高い水道システムを構築し、お客様のニーズに応じた質の高いサービスを提供していくことを目的としています。そのため、50年後を見据え長期的視点に立った将来像とそれに向けて事業を進めるための具体的な方向性を示すとともに、今後10ヵ年の目標及び実現方策を定めています。

2 位置づけ

「長野市水道ビジョン」は、本市の水道事業の今後10ヵ年（平成26～35年度）の基本計画と位置づけます。

本ビジョンは上位計画である第四次長野市総合計画の施策を反映し、厚生労働省の新水道ビジョンの考え方に基づき、改訂しました。

また、改訂に当たっては長野市上下水道事業経営審議会やパブリックコメント*により、局外の方々からの貴重な意見を取り入れました。

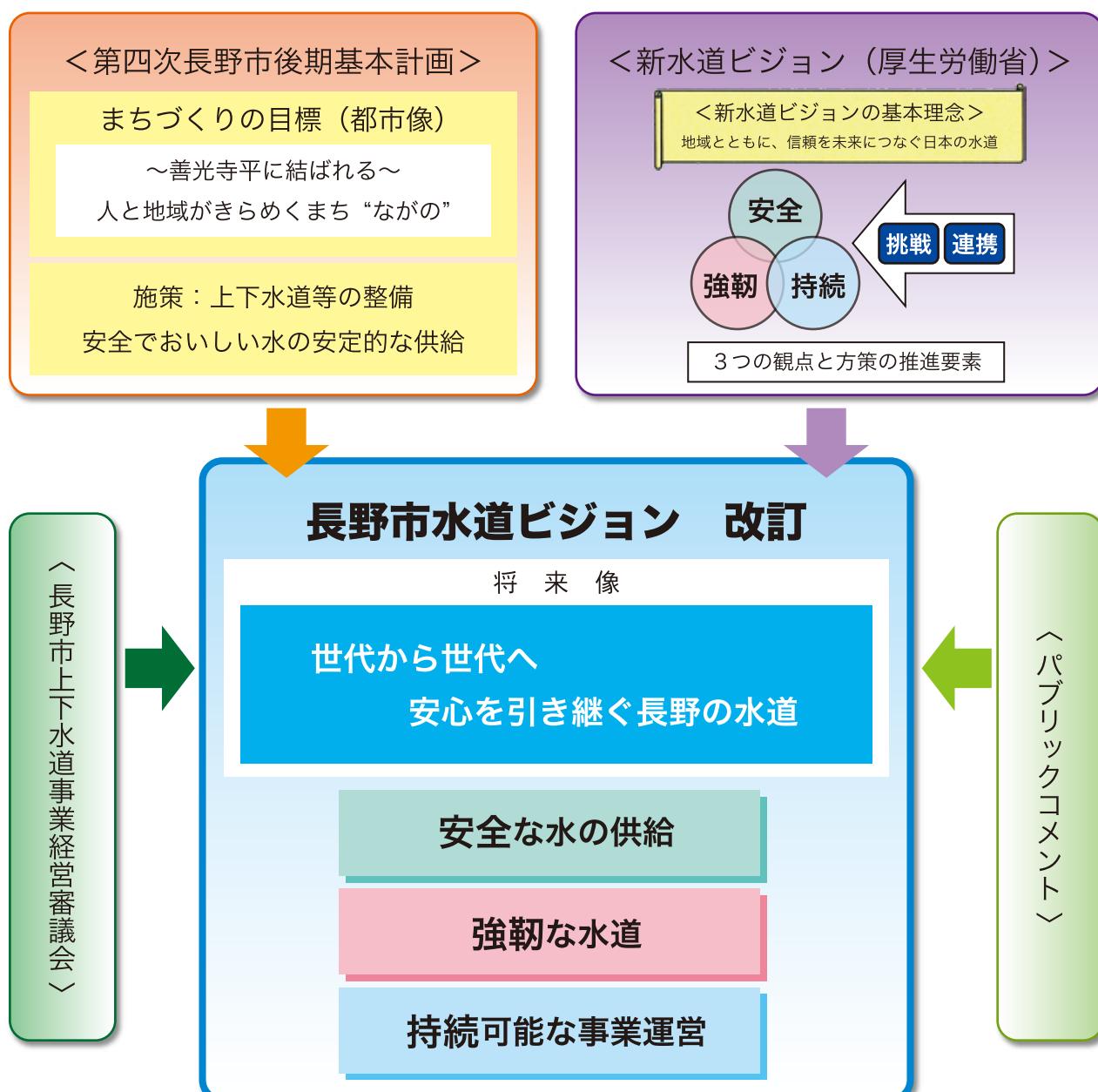


図 1-1 長野市水道ビジョンの位置づけ



子ども向けのパンフレット